第6学年2組 国語科 単元学習プラン

児童数 23名　授業者　菊地 哲

1. 単元名　ぼく・わたしの「読む」

2. 単元の目標

(1) 自分が気になる叙述や描写とその働きに着目し、登場人物の相互関係や心情の変化などを軸にした作品世界をかたちづくることで、言葉とその使い方に対する認識を深め、語彙を豊かにすることができる。　【(1)オ】(知識・技能)

(2) 登場人物の相互関係や心情の変化などについて、叙述や描写等に着目し、その効果を考えながら読むことができる。　【C(1)エ】(思考力・判断力・表現力)

(3) 読んで考えたことを聞き合い、一人一人の考えの相違を感じる中で、作品の見え方や感じ方を広げたり、深めたりしている。

3 子どもが働かせる見方・考え方　　○言葉の働きや言葉の使い方への着目

4 単元構成(単元計画(全10時間) 本時 5.5/10)

<table>
<tr><th colspan="2">主な学習活動【○】</th><th>子どもの考え(A児を中心に)【○】</th></tr>
<tr><td>集団追求過程</td><td>□「自分にとっての『読む愉しさ』とは何かを話し合う。<br>(1.5h)</td><td>○言葉の意味や使い方を考えると登場人物の気持ちの変化がよく分かることかな。<br>○作者の違いが言葉選びや表現の仕方に違いにもなっていて面白かったね。<br>○重松清さんや森絵都さんの作品を読んで、その作品について考えるのは楽しいんだけど、結局、そう考えている自分に改めて気がついたり、何か新しい自分になったような感じになったり、そういうことが愉しみなんじゃないかなと思ったよ。つまり、「読むことを愉しむ」って、自分を見つけること、じぶんを見つけようとすることなんじゃないかな。今回学習で使う「海の命」は立松和平さんの作品だね。どういう着眼で読んでいけば、自分について深く考えられるんだろう。<br>○まず、一人で学習を進めたい。自分の力でやってみたいね。自分なりに分かったって思えたり、ちょっとどういうことなんだろうって思ったりしたことは、友達と話し合ってみるのがいいかな。<br>○個人学習は何時間位がちょうどよさそうだろう。</td></tr>
<tr><td>個別追求過程</td><td>□個人学習を進める。<br>(4h)</td><td>○まず音読を5回しよう。そして、気になる言葉を見つけながら読んでみようかな。<br>○僕は、物語を読むには、5年生の時に学習した情景描写が大事だと思うな。だから、情景描写を中心に読んでいこうかな。<br>○「海の命」には太一の成長が描かれているよ。自分と関わらせながら読んでいくことで自分についても考えを深めるきっかけになるかもしれないな。<br>○自分なりにこの物語の面白さが分かったぞ。でも、ちょっと気になる所もあるな…。誰かと話し合いたいな。<br>○友達の話でなるほどと思ったけど…、自分でもう一度考え直してみようかな。</td></tr>
<tr><td>集団追求過程</td><td>本時の目標 「海の命」を読み、考えたことについて話し合い、自分の見方や考え方を拡張していくことができる。 (1/2時間目)<br><br>■意見を出し合って読む愉しさを広げたり深めたりする。<br>(2h)</td><td>1 個人学習で考えたことをもとに話し合い、自分の考えを広げたり、深めたりする。<br>○太一はどんどん成長していい漁師になっていったけど、最後にクエにもりを打たなかったのは本当に成長したと言えるのかな。<br>○私はどうしてこの作品の題名を「海の命」にしたのかなと思って読んだんだけど、「父もその父も～太一もまた住んでいた。」というところや「父もそうであったように、与吉じいさも海に帰っていったのだ。」ということろから、海は生き物ではないんだけど、大きな生命で…。人も魚もその一部なんだと思う。だから、太一のおとうも与吉じいさも、必要以上に魚を獲らなかったんじゃないかな。最後に太一もそう感じてクエにもりを打たなかったんだと思う。クエの命もおとうの命も海から生まれて海に帰っていく「海の命」だという風に思えたんじゃないかな。海の命を大切に守ってきたおとうの思いを引き継ぎ、子供達につなげていくことが一人前の漁師だと考えているんじゃないかな。<br>○与吉じいさが亡くなった時に「海に帰りましたか。」と言っていることも、「おとう、ここにおられたのですか。」と言っていることも、そういうことにつながっていくのかもしれないね。<br><br>2 話し合ったことをもとにして、次の学習への見通しをもつ。<br>○物語の面白さを知るには、言葉の意味を考えたり、表現の役割を考えたりする他に、作品全体の中でのつながりからも考えるとよさそうだな。<br>○命のつながりとか思いのつながりとか、少し長い時間の流れという視点で考えていくと「自分を知る」ことに結びつくと思うな。<br>○僕は、立松和平さんの他の作品も探して「海の命」と読み比べてみたいな。</td></tr>
<tr><td>個別追求過程</td><td>□個人学習を進め、学習をまとめる。<br>(2.5h)</td><td>○立松和平さんの作品って描写が特徴だよね。重松清の「カレーライス」や森絵都さんの「帰り道」では叙述が特徴だったな。言葉や書き方はずいぶん違うんだな。ちょっと誰かと話し合ってみたいな。<br>○自分にとって「読むこと」を愉しむには、その物語が3Dみたいに見えることだな。それって、登場人物のストーリーがわかるってことと同じかな…。でも、そうすると…、作者が何故そう書いたのかを考えることが大事なのかな。それと、個人学習をしっかりやらないとだめだ。これは何の学習でもそうだけどね。</td></tr>
</table>